Oris SA
Ribigasse 1
CH-4434 Hölstein
Phone +41 61 956 11 11
Fax +41 61 951 20 65
info@oris.ch
www.oris.ch

取扱説明書

ORIS
Swiss Made Watches
Since 1904

変更の可能性あり

この度はオリスの時計をご購入いただき誠にありがとうございます。また、機械式腕時計の世界へようこそ。オリスの時計はどれもすべて機械式です。

お買い上げいただいたオリスの時計は、大量生産で市場にありふれたものとはかけ離れた、マイクロメカニカル技術を駆使したムーブメントとスタイリッシュでシームレスな外観を併せ持つ、スイス時計製造技術の真の価値を体現した逸品です。オリスは1904年創業当時からの長い伝統を受け継いでいるだけでなく、時計作りのクラフトマンシップとF1、ダイビング、アヴィエーション界などのプロフェッショナルの意見を取り入れ、洗練された'High-Mech(ハイ-メカ)'システムの融合でもあります。

またもう一つの大切な特徴として、オリスの時計はバッテリーを必要としないことがあります。私たちの時計はすべてあなたの動作や手で巻くことによって、時を刻んでいます。

詳しい情報はオリスサイトwww.oris.chをご覧ください。また、オリスメンバーズクラブ：マイオリスにご登録いただくと無料で保証期間延長サービスを受けることができます。

オリスの時計と共に上質な時間をお楽しみ下さい。

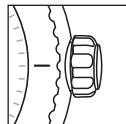
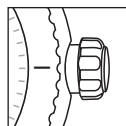
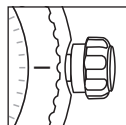
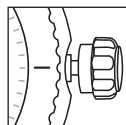
ウーリックW.エルゾック
会長

指示矢印の説明：

▸ = 操作方法
⊙ = お役立ち情報

日本語

チャプター1

ほとんどのモデルは下記説明があてはまりますが、当てはまらないタイプのムーブメントを使用しているモデルに関しては別ページにて説明しています。

0.
リューズロック状態（通常位置）

1.
ゼンマイ巻上げ位置

2.
日付セット位置

3.
時刻セット位置

- 水中では絶対に上記の操作を行わないで下さい。

通常モデルのリューズ

- 通常モデルのリューズは精度の高い部品です。リューズは水の浸入を防ぐ防水加工が施されています。オリスでは約半分のモデルに採用されています。

▸図1の位置にあるリューズは以下のチャプター通りにすぐに操作ができる状態です。

ねじ込み式リューズ

- いくつかのモデル、特にダイバーズウォッチにはねじ込み式リューズが採用されています。このリューズを操作する場合は、最初にリューズを回してロックを解除する必要があります。

▸リューズを反時計回りに回してロック解除して下さい。
▸リューズが1の位置になったら、以下説明に従い操作が可能な状態です。
▸操作後はリューズを押し込みながら時計回りに回してしっかり元の位置に戻します。
▸ リューズがしっかりとねじ込まれているか、時計ご使用時に時々確認して下さい。

- リューズがきちんとねじ込まれている状態でのみ時計は防水機能を発揮します。

クイックロック式(QLC)リューズ

- オリスが開発したクイックロック式リューズは、ねじ込み式リューズよりもロック解除が簡単にできます。

▸リューズを押しながらゆっくりと少しだけ反時計回りに回してロック解除して下さい。
▸リューズが1の位置になったら、以下説明に従い操作が可能な状態です。
▸セット後は、リューズを押しながら少しだけ時計回りに回して再びロックして下さい。

- リューズがきちんとロックされている状態でのみ時計は防水機能を発揮します。

ねじ込み式プッシュボタン

- いくつかのモデル、特にダイビングクロノグラフウォッチには、ねじ込み式リューズ同様、ねじ込み式プッシュボタンがあります。

▸プッシュボタン根元にあるリングネジを反時計回りに止まるまで回して下さい。
▸これで操作が可能です。
▸操作後はリングネジをゆっくり時計回りに回してしっかり元の位置に戻します。

- プッシャーリングネジがきちんとねじ込まれている場合に限り時計は防水性を保ちます。
- プッシャー操作は水中では絶対に行わないで下さい。

自動巻ムーブメント

- 時計を1日12時間ほど着用されればリューズを手で巻上げる必要はありません（1日の運動量によって巻上げ量は異なります）。腕の動きによって赤いローターが回転し、ゼンマイを巻上げてくれます。夜、時計をはずした後も時計は持続して動き続けていますが、着用時の運動量によっては止まってしまいます。

もし、止まってしまった場合は下記の通り操作する必要があります：
▸ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズの時計の場合はチャプター1の指示に従ってロックを解除して下さい。
▸リューズが図1の位置の状態で、時計回りに12回ほど回して下さい。（秒針が動き始めます。その後時刻を合わせて下さい）
▸下記操作を実行してください。
▸チャプター1の説明通りに、リューズをロックして下さい。

- クリスタルケースバックの自動巻モデルは、オリスの品質の証であるレッドローターがムーブメントを巻上げる様子を見ることができます。

手巻ムーブメント

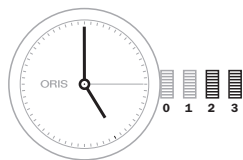
- 手巻ムーブメントの時計では、手でゼンマイを巻く必要があります。ゼンマイを一杯に巻上げた状態で最大42時間動きます。

▸ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズをチャプター1の指示に従ってロック解除して下さい。
▸リューズを時計回りに巻きます。リューズはどちらの方向にも回ります。
▸軽い抵抗を感じたら巻くのをやめて下さい。ゼンマイが一杯に巻上げられた状態です。

- それ以上無理に巻上げるとゼンマイが破損する恐れがあり、この場合の修理はお客様負担となってしまいます。

▸1日に1回巻いて下さい。
▸チャプター1の指示に従い、リューズをロックして下さい。

曜日、日付、時刻

- ここでの操作方法は曜日および日付表示ウィンドウもしくは、曜日および日付表示針搭載の多くのモデルで適用されます。オリス コンプリケーションやオリス クロノグラフ(ムーブメント676)などのモデルはここでは例外となり、別セクションにて説明しています。

位置 0. リューズロック状態（通常位置）
位置 1. ゼンマイ巻上げ位置
位置 2. 日付セット位置
位置 3. 時刻セット位置

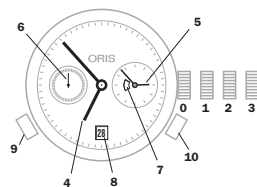
- ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズをチャプター1の指示に従ってロック解除して下さい。
- リューズを3の位置まで引いて下さい。
  - 日付が変わり、その後6:00の位置になるまで針を進めて下さい。
    - 長短針が午後9時から午前3時の間にある時は機械を破損させる恐れがある為、日付・曜日の早送りは絶対に行わないで下さい。
- リューズを2の位置まで押し戻して下さい。
  - リューズをムーブメントのタイプにより、時計回りもしくは反時計回りに回し、現在の日付にセットして下さい。
  - 曜日表示ウィンドウがある場合、リューズを反時計回りに回し、曜日をセットして下さい。
- リューズを3の位置まで引いて下さい。
  - 時刻セットーリューズを回して現在の時刻に合わせて下さい。
    - 時刻は24時間設定ですので、午後の場合はもう一周進めて下さい。
      この時点でリューズを1の位置まで押し戻せば、今セットした時刻で使用開始できます。
- リューズを1の位置まで押し戻して下さい。
- チャプター1の指示に従い、ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズをロックして下さい。

日付のセット

- 31日未満の月の場合は、日付を手動で次の月の1日にセットする必要があります。（リューズ2の位置）
- ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズをチャプター1の指示に従ってロック解除して下さい。
- まずリューズを3の位置まで引いて6時の位置に針を進めて下さい。その後2時の位置に戻し、ムーブメントのタイプにより時計回りもしくは反時計回りに回して希望の日付にセットします。
- リューズを1の位置まで押し戻して下さい。
- チャプター1の指示に従い、ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズをロックして下さい。

ワールドタイマー

- オリス ワールドタイマーは独立した2つのタイムゾーン表示：(T1ローカル（現地）タイムとT2ホーム（母国）タイム）を備え、それぞれに時針・分針があります。T1とT2の分針は連動しています。T1の時針は2つのプッシュボタンを押すことで1時間ずつ前/後のセットが簡単にできます。日付は23:00と03:00の間に、前日/翌日に変更できます（オリス特許）。また、T2にはデイ・ナイト表示が搭載されています。

位置 0 リューズロック状態（通常位置）
位置 1 ゼンマイ巻上げ位置
位置 2 日付変更位置
位置 3 時刻セット位置
4 T1(ローカルタイム)
5 T2(ホームタイム)
6 スモールセコンド
7 デイ・ナイト表示
8 日付
9 ープッシュボタン (T1用)
10 ＋ プッシュボタン(T1用)

ローカルタイムおよびホームタイムの同時刻合わせと日付のセット:

- ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズをチャプター1の指示に従ってロック解除して下さい。
- リューズを3の位置まで引き、反時計回りにリューズを回しT2の時刻を午前5時にセットして下さい。デイ・ナイト表示はダークを表示します。
- ＋ボタンを使ってT1の時刻も午前5時にセットします。（日付は01:00 – 03:00の間に変更します）
- リューズを2の位置まで戻し、反時計回りに回して日付をセットして下さい。合わせたい日付に回した後、さらに小さなカチッという音がするまで送ります。それから時計回りにリューズを回し、カレンダー窓の中央に数字が来るように戻してセットします（図1）。操作はゆっくり行って下さい。

28 28 (図 1)

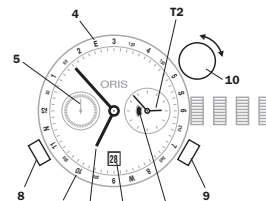
- 再びリューズを3の位置まで引き、現在の時刻に合わせて下さい。午後の時刻の場合はもう1周回して下さい。
  - この時点でリューズを1の位置まで押し戻せば、今セットした時刻で使用開始できます。
- リューズを1の位置に押し戻します。
- チャプター1の指示に従い、リューズをロックして下さい。

- 歯車の噛み合わせの関係で、T1とT2が完全に同期するまでおよそ10分ほどかかります。また、T1とT2の表示誤差は1分が許容範囲となっています。

T1(ローカルタイム)のセット：

- ＋もしくはープッシュボタンでT2(ホームタイム)との時差を設定します。
- 時刻のセット中に午前0時を過ぎれば、日付も前/翌日に修正できます。（オリス特許）

サードタイムゾーンとコンパス付ワールドタイマー

- 前述の“オリス ワールドタイマー”チャプターでの機能に加えて、このモデルは独立した第3時刻表示のインナー回転ベゼルと方位を示すコンパス機能も搭載しています。このモデルは常に第3時刻表示機能を必要とする、パイロット、頻繁に旅行する人、国際的なビジネスマンなどにとって理想的な時計です。

T1 出発地の時刻
T2 ホームタイム または GMT
T3 目的地の時刻
4 コンパス目盛
5 スモールセコンド
6 デイ・ナイト表示

7 日付
8 －プッシュボタン T1
9 ＋プッシュボタンT1
10 T3および方位調整用バーティカルリューズ

上図では
T1 6:53 または 18:53を表示
T2 02:53
T3 09:53 または 21:53

同期しているT1とT2の時刻と日付のセット：
- “ワールドタイマー”チャプターを参照して下さい。

T3のセット：
- T3の時刻を決めます。(目的地時刻もしくは出発地と異なる時刻など)
- バーティカルリューズ(10)を引き上げて下さい。
- バーティカルリューズ(10)を時計回りもしくは反時計回りに回して、時刻を調整します。
- バーティカルリューズを押し戻し、通常の位置にします。

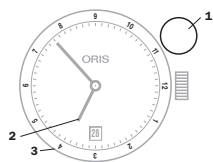
コンパスのセット：
- 時計を手首からはずして操作して下さい。
- バーティカルリューズを引き上げ、ベゼルを回して時針と１２時の中間点にコンパスの南をセットします。（18:00と6:00は時針と12時の間の角度が大きくなります。）
- バーティカルリューズを押し戻し、通常の状態にします。
- 時針を太陽に向けて、コンパスベゼル上の方位点を読みます。
- “時計をコンパスとして使用する”内の図を参照して下さい。

セカンドタイムゾーン用回転ベゼル：

- 回転ベゼルを回し希望の第2ヵ国時刻を設定します

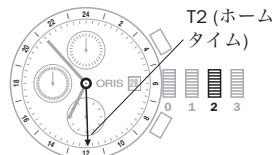
上記の例では、セカンドタイムゾーンは08:53または20:53を示しています。

バーティカルリューズ付インナー回転ベゼル セカンドタイムゾーン表示

- バーティカルリューズ(1)を引き上げて下さい。
- リューズを時計回りもしくは反時計回りに回して希望の第二時刻(T2)をセットします。
- バーティカルリューズを押し戻し、通常の位置にします。

1 バーティカルリューズ
2 T1(ローカルタイム)
3 インナー回転ベゼル
T2（ホームタイム）

上図では、T1は06:53 または18:53、T2は03:53 または15:53を示しています。

24時間針付セカンドタイムゾーン

- ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズをチャプター1の指示に従ってロック解除して下さい。
- リューズを2の位置まで引き、反時計回りに回してT2(ホームタイム)の時刻をセットします。
- リューズを1の位置に押し戻して下さい。
- チャプター1の指示に従い、リューズをロックして下さい。

上図の例では、セカンドタイムゾーンは11:53を示しています。

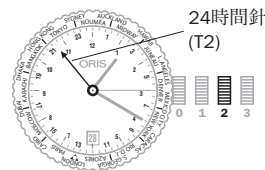
24時間針付セカンドタイムゾーンおよび回転ベゼル都市表示 GMT

- ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズをチャプター1の指示に従ってロック解除して下さい。
- リューズを2の位置まで引き、時計回りに回してT2(ホームタイム)の時刻をセットします。
- リューズを1の位置に押し戻して下さい。
- チャプター1の指示に従い、リューズをロックして下さい。
- T都市名表示がある回転ベゼルを、合わせたい都市（ホーム都市）とT2（24時間針）が合うまで回して下さい。

この状態で、回転ベゼルに記載されている都市が指す時刻がその都市の現地時刻になります。ただし、この設定ではサマータイムは考慮されていません。

- 再び回転ベゼルに記載されている都市の時刻を読み取るには、T2(24時間針）が“ホーム都市の時刻”を示していると仮定して、常に回転ベゼル“ホーム都市”をT2(24時間針）に合わせ直して下さい。

例：

ロンドン（GMT）でのローカルタイムが13:20の時。24時間針はホームタイムである香港の時間、21:00を指しています。24時間針がホームシティとして香港を指すように、回転ベゼルを合わせます。すると、ニューヨーク08:20、カイロ15:20、モスクワ16:20など、ベゼルに書かれているその他都市時刻も正確に読み取れるようになります。この設定ではサマータイムは考慮されていません。

クロノグラフ

オリス クロノグラフは時刻と日付表示に加えてストップウォッチ機能を搭載しています。日常使いに大変便利な機能です。

- リューズとプッシュボタンの操作は“使用開始”チャプターを参照して下さい。
- 時刻と日付設定は“時計のセットと操作”チャプターを参照して下さい。（☞ムーブメント676搭載モデルは下記を参照）

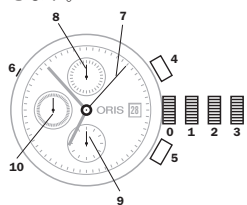
計時停止とすべてのクロノグラフ表示をリセットする：
- プッシュボタン4を押すとクロノグラフ針が作動し始めます。
- 再度プッシュボタン4を押すとクロノグラフ針が止まり、計時がストップします。
- もう一度プッシュボタン4を押すとクロノグラフ針が再び動き出し、先程の時間から続いて計時をします。
- さらにプッシュボタン4を押すとクロノグラフ針が止まり、計測がストップします。
- プッシュボタン5を押すとすでに停止しているクロノグラフ針とミニッツおよびアワーカウンターカウンターがゼロ位置にリセットされます。

クロノグラフ計時を読み取る：

クロノグラフ秒針(7)では、1/4秒から最大60秒までの経過時間をダイヤル上で読むことができます。

クロノグラフ分針(8)で最大30分

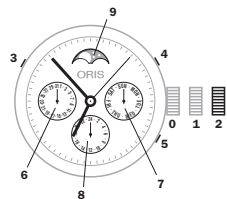
までの経過時間を読むことができます。

- クロノグラフ時針(9)で最大12時間までの経過時間を読むことができます。

位置 0 リューズロック状態（通常位置）
位置 1 ゼンマイ巻上げ位置
位置 2 日付セット位置
位置 3 時刻セット位置
4 スタート/ストップボタン
5 リセットボタン
6 ムーブメント676・日付セット用プッシュボタン
- プッシュボタンを専用ツールもしくは爪楊枝等で押し、希望の日付にセットします。

7 クロノグラフ秒針
8 クロノグラフ30分積算計
9 クロノグラフ12時間積算計
10 通常の秒針
- 通常の秒針が意図的に搭載されていないモデルもあります。この場合、クロノグラフ秒針(7)を通常の秒針としてご使用することができます。

コンプリケーション

- ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズをチャプター1の指示に従ってロック解除して下さい。
- リューズを2の位置まで引いて下さい。
  - リューズを回転させ針を進め、ムーンフェイズ表示を進めていきます。ムーンフェイズは22:00–23:00の間で進みます。
- 表示が現在のムーンフェイズに来た後、日付変更を過ぎ、時刻を午前5時にセットして下さい。
- プッシュボタン3を専用ツールもしくは爪楊枝等で押し、希望の日付にセットします。
- プッシュボタン4を押して曜日をセットします。
- リューズを操作し現在時刻をセットします。午後の時刻セットの場合はもう1周回して下さい。

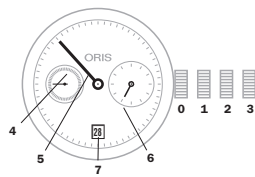
- （時計は24時間で作動しています）この時点でリューズを1の位置まで押し戻せば、今セットした時刻で使用開始できます。
- リューズを1の位置に押し戻して下さい。
- チャプター1の指示に従い、リューズをロックして下さい。

位置 0 リューズロック状態（通常位置）
位置 1 ゼンマイ巻上げ位置
位置 2 時刻とムーンフェイズセット位置
3 日付セットプッシュボタン
4 曜日セットプッシュボタン
5 セカンドタイムゾーン表示セットプッシュボタン
6 日付表示
7 曜日表示
8 セカンドタイムゾーン表示
9 ムーンフェイズ表示

セカンドタイムゾーンのセット：

- この設定はいつでもできます。
- プッシュボタン5(セカンドタイムゾーン)を専用ツールもしくは爪楊枝等で押し、時刻をセットして下さい。

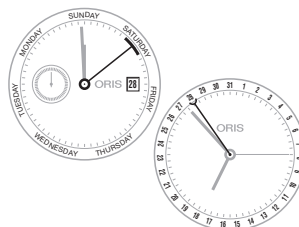
レギュレーター

- レギュレーターはもともとは主に時計技術師が製造した腕時計をテストや調整するために使用していた精密時計でした。針同士が重なるのを避けるため、針がそれぞれ独立しています。レギュレーターでは、分針のみがセンターに配され、秒針と時計は小さな独立したサブダイヤルに配置されています。

- リューズ操作、時刻と日付のセットはチャプター1を参照して下さい。

位置 0 リューズロック状態（通常位置）
位置 1 ゼンマイ巻上げ位置
位置 2 日付と曜日セット位置
位置 3 時刻セット位置
4 秒針
5 分針
6 時針
7 日付表示

ポインターカレンダー

- 1938年のポインターカレンダー付ムーブメントの発表はオリスの歴史の中でも画期的なことでした。オリスポインターは日付だけでなく曜日をダイヤル上の専用スケールにて表示します。発表以来このオリスの代表的ムーブメントは、様々なモデルに搭載されています。もちろん、ムーブメントは最新技術の進歩に伴い、初期のものから何度も改良されています。

- リューズ操作、時刻と日付のセットはチャプター1を参照して下さい。

アラーム機能付自動巻き時計

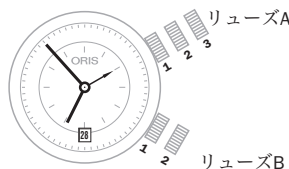
- オリスのアラーム機能付手巻腕時計が初めて発売されたのは1988年のことでした。2008年にはサウンドスプリングによる特別なアラーム音を特徴とする自動巻ムーブメントのアラームウォッチが発表されました。この製品は1949年に開発されたオリス8日巻きアラーム置時計からの長い伝統を受け継いだものです。

- リューズA:ゼンマイ巻上げ、時刻と日付のセットはチャプター1を参照して下さい。

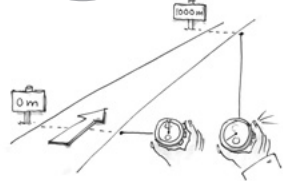
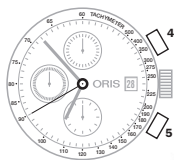
- リューズBを1の位置で時計回りに回し、必要であれば（日に何度も使用したり、時計を再始動したりする場合など）リューズを12回ほど回転させアラームムーブメントをしっかりと巻上げて下さい。

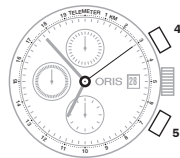
- アラーム機能付自動巻時計の通常の使用において、ムーブメントとアラームスプリングは常に巻かれた状態になります。
- リューズBを2の位置まで引き、反時計回りに回し、希望のアラーム時刻をセットします。
- このリューズ位置で、アラーム機能はオンの状態になり、12時間以内にセットした時刻になるとアラームが鳴ります。
- リューズBを1の位置に押し戻して下さい。
- アラーム機能がオフの状態になります。

リューズA、1. ムーブメントゼンマイ巻上げ位置
リューズA、2. 日付セット位置
リューズA、3. 時刻セット位置
リューズB、1. アラームゼンマイ巻上げ位置、アラームオフ状態

リューズB、2. アラームセット位置、アラームオン状態

タキメーター—
スピードを計る

- クロノグラフモデルのベゼルリングやダイヤル上にあるタキメーターは、スピードを計る際使用します。（例えば1km（もしくは1マイル）の距離を車で移動する場合など）

- 回転式リングにタキメーターが搭載されている場合、タキメーターの60を12時に合わせます。乗物がスタート地点を過ぎたらすぐ、プッシュボタン4を押しクロノグラフ機能をスタートします。
- 乗物がゴール地点を過ぎたらすぐ、再度プッシュボタン4を押します。
- タキメーター上でクロノグラフ針が指す数字が、平均時速（km（マイル））です。
  - 下記の例では、測定距離を40秒で走る乗物は、平均時速90km(90マイル)となります。
  - 平均時速が60km(60マイル)以下の場合は計測ができません。
- プッシュボタン5を押し、針をゼロに戻して下さい。

テレメーター—
距離を測る

- クロノグラフモデルのベゼルやダイヤル上にあるテレメーターは、光と音により（雷の光と雷鳴など）距離を計る際使用します。
  テレメーターの目盛は音速に基づいています。
  （20 °Cの空中で秒速343m）
- 回転リングテレメーターの場合、目盛の0を12時位置に合わせます。

- 光が見えたらすぐ、プッシュボタン4を押しクロノグラフ機能をスタートします。
- その音が聞こえたらすぐ再度プッシュボタン4を押します。
  - 上記の例では、雷はまだ3 km離れた距離にあるということになります。

ダイバーズウォッチ用60分
目盛付回転ベゼル

- すべてのオリスダイバーズウォッチの回転ベゼルは、反時計回りでのみ調節ができます。
  これは、不意にベゼルが回転し設定や計測した時間が変わってしまうのを避ける為であり、ダイバーが適切に減圧する時間を確認できるようになります。

- ダイビングウォッチの回転ベゼルは、駐車時間、調理時間、ゲーム時間など、色々な用途でタイマーとして活用することもできます。

分計測のための回転ベゼルの使用方法：

- 回転ベゼルのマーカーを現在時刻を表示している分針に合わせます。
  - 経過時間または予め設定した終了時間をベゼルから読み取ることができます。

- 上記の例では、計測をスタートしてから33分が経過していることになります。

ヘリウムバルブ

- ヘリウムバルブ付時計は、ダイビングベルを使い潜水するダイバーやその他濃縮ヘリウムがある空間での使用に向けたものです。
  不活性ヘリウムガスはもっとも小さい微分子の一つである為、時計内部にまで入ってしまう恐れがあります。一度ケース内にガスが入ってしまうと、特別なバルブ（ヘリウムバルブ）を使わない限りすぐに取り除くことができません。水中での上昇後、このバルブを開くことによって時計ガラスに内側からの過剰圧力がかかるのを防止できます。オリスのダイバーズウォッチではポイントで色をつけているリューズがヘリウムバルブです。

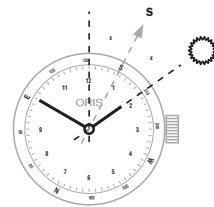
- ダイビングの前に、ヘリウムバルブリューズを時計回りにいっぱいに回しバルブを閉じます。

- ダイビングステーションを離れる前に、ヘリウムバルブリューズを反時計回りに、リューズが開くまで回します。

- バルブが開いたままになっていたとしても、時計は通常使用の防水性を持っています。しかしダイビングの際は、バルブは上記に述べたように閉じた状態でなくてはなりません。

時計をコンパスとして使用する

- アナログの時分表示の時計は太陽の位置を時針に合わせると、コンパスとして使用することができます。ただし、太陽の位置がはっきりと確認でき、また時計が正確な時刻を表示していなくてはなりません。
- 目盛付ベゼルが付いている場合は、二等分線（中心点）を知ることもできます。

- 手首から時計をはずし、時針が太陽の位置を指すように時計を向けます。
- 太陽に向けた時針と時計の12時位置の間の二等分線が南を示します。
- 南が分かると、その他の方角が推定できます。

- コンパス用目盛が付いた回転ベゼルの場合は、南だけでなくその他方角をより簡単に確認することができます。このような時計の場合は下記操作をして下さい：
- 手首から時計をはずして時針を太陽に向け12時位置との中間線で南を確認します。
- そしてコンパスベゼルの南をその方向に合わせることで、全ての方角を知ることができます。

- レザー、ラバー、メタルなどストラップの使用方法は“テクニカルインフォメーションと商品概要”チャプターを参照して下さい。

レザーストラップ付時計

- 着脱時、誤って地面に落下することのないようベルトを締める際はテーブルの上で行うようにして下さい。

- フォールディングバックル付ストラップは着用し易く、セキュリティ面でも長けています。また操作を誤ってしまっても、バックルがホールドしてくれるので地面に落下させずに済みます。
  - 手首から時計をはずして下さい。
  - ベルト穴を使ってストラップを手首のサイズに調節します。
  - ストラップを調節したら、はずれないようバックルをしっかりと正しいベルト穴の位置に押し込んで下さい。

- 古いフォールディングバックルは調節しにくい場合があります。お困りの際は、オリス正規販売店へお問合せ下さい。

- 無段階調節フォールディングバックル付ストラップ：

これはオリスが開発・特許を持つ新しいタイプのフォールディングバックルで、飛行機のシートベルトの原理がベースとなっています。ストラップの長さが好きなように調節できます：

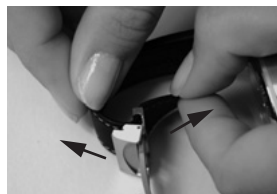



図1

- 手首から時計をはずし、バックルを開いた状態で柔らかい場所に置いて下さい。
- バックルを持ち、折り込んであるベルトを先端側と時計側をあわせて指で挟み、バックル側に押し出します。
- ベルトの先端を引いてベルトを短くするか、時計側のベルトを引いてサイズを長くします。(図1)
- カチっという音が聞こえるまで留め金を押して下さい。
  - 留め金が正しく押し込まれていないと、フォールディングバックルは締まりません。

ラバーストラップ付時計

- オリスのラバーストラップはすべてフォールディングバックル付です。

ストラップの長さ調節の為カットするには：

- お客様の手首のサイズにぴったり合うよう、オリス正規販売店にご相談下さい。

- ストラップのバックルに調節機能がある場合、その幅でご自分で長さ調節をしていただけます。(“フォールディングバックルの微調整”参照)

フォールディングバックルで片側に穴が開いているストラップの場合：

- 手首から時計をはずして下さい。
- ベルト穴を使って、お好きなサイズに調節して下さい。
- ストラップを調節したら、はずれないようバックルをしっかりと正しいベルト穴の位置に押し込んで下さい。

- ダイビングスーツ用のエクステンションリンク付フォールディングバックルは微調整ができません。

メタルブレスレット付時計

- メタルブレスレットの長さ調節はコマを外したり足したりする必要がある為、オリス正規販売店にて行います。
- ブレスレットのバックルに微調整機能がある場合、ある程度の微調節であればお客様ご自身で行えます。(“フォールディングバックルのファインアジャストメント”を参照)

フォールディングバックルの微調整

- 微調整機能付バックルのメタルブレスやラバーストラップは、下記操作により限られた範囲で調節することが可能です：

- ダイバースーツ用エクステンションリンク付ラバーバックルは微調整ができません。

- バネ棒で目を怪我しないよう、ゴーグルを着用して下さい。
- フォールディングバックルを開け、時計とストラップをリューズが上になるようにして厚紙などの上に置きます。
- 爪楊枝等を使い、ファインアジャストメントのバネ棒をストラップのバックルの中に押し入れて下さい。(図1)
- 慎重にストラップを外して下さい。バネ棒が飛び出すことがありますのでご注意下さい。
- 調整したい穴の下側にバネ棒の先を入れ、バックルの上側の穴の位置にバネ棒の先を合わせます。(図２)
- 薄いドライバー等で上側のバネ棒の先端を押さえ、バックル内に押し込み、バックルの穴にバネ棒の先端がカチッとはまるのを確認して下さい。(図３)
- ストラップがバックルにしっかりと付いていることを確認して下さい。

図1

図2

図3

日本語

精度

- 機械式時計の精度は使用しているムーブメント、ユーザーの使い方、気温の変動などにより異なります。

- オリスの時計はすべて出荷前に工場で検査と調節がされており、日差－5秒～＋20秒が許容範囲です。

  クロノメーターはこの日差よりさらに厳しくテストと調節がされます。（“クロノメーター”参照）

- もしお持ちの時計がこれらの日差範囲内で動いていない場合は、オリス正規販売店かオリスサービスセンターで調整することができます。保証期間内であれば、このサービスは無料です。

クロノメーター

- クロノメーターとは、スイスの公的機関スイスクロノメーター検定協会（COSC）が実施する厳格な精度テストにパスしたことを証明されたムーブメントのみに与える認定のことです。精度基準としてのクロノメーター規格はISO規格（NIHS 95-11/ISO 3159）として定められています。

- COSCでのクロノメーターテストは15日間に渡って行われ、すべてのテストは湿度24％の中で行われます。24時間毎に精度誤差が計測され、その際にムーブメントの巻上げと初期化がなされます。テスト10日目にはクロノグラフなど時計の複雑機構を作動させ、ムーブメントの操作精度を測定します。ムーブメントの精度は異なる5つの姿勢、３つの気温でそれぞれ測定されます。

- この検査に合格すると、その精度とクロノメーター認定ムーブメントであることを証明する公式証明書が与えられます。認定されたすべてのムーブメントは刻印ナンバーとCOSC認定ナンバーにより識別されます。

テスト日	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
測定姿勢	6 時上			3 時上		9 時上		文字盤側上		裏蓋側上					6 時上	
温度 °C	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	8	23	38	23	23
R(s/d)		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10*	R11	R12	R13	R14	R15

*複雑機構はすべて作動させる

テスト基準 単位は全て、秒(s)／1日(d)	略表	ムーブ直径 > 20 mm	ムーブ直径 < 20 mm
平均日差 (異なる5姿勢での日差の平均)	Mmoy	–4 ～ +6	–5 ～ +8
平均日較差 (各姿勢ごとの日差の差（日較差）の平均)	Vmoy	2 以内	3.4 以内
最大日較差 (同姿勢の日較差の最大値)	Vmax	5 以内	7 以内
垂直・水平の姿勢差 (水平姿勢での平均日差と垂直姿勢での平均日差の差)	D	–6 ～ +8	–8 ～ +10
最大姿勢偏差 (各姿勢での平均日差と日差との差の最大値)	P	10 以内	15 以内
温度係数 (温度差1 °C毎の日差の差異)	C	±0.6	±0.7
復元差 (15日目の日差から最初の2日の日差の平均値を差し引いた値)	R	±5	±6

防水性

- オリスはすべての時計が仕様に沿った数値の防水性を持っているか検査を行っています。オリスでは全モデルが3気圧または30m以上の防水性を持ちます。各モデルの防水性は時計のケースバックもしくはダイヤルに記載されています。

- 防水性が**10**気圧または**100m**(**328**フィート)未満の時計は水中での着用はできません。（下記グラフを参照）

- 防水性が10気圧 (100m)以上のモデルは水中での着用が可能です。
- 時間の経過と共に、日々の使用や裏蓋の劣化などが防水性を弱めます。この為、年に1度のオリス正規販売店による防水検査を受けることをお奨めします。
- 通常のリューズは常に1の位置に押し込まれている状態にし、時計の防水性が保証されるようにして下さい。
- 時計の防水性を保証する為、ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズと、ねじ込み式プッシュボタンは常にロックされた状態にして下さい。
- 水中では絶対にリューズやボタン操作を行わないで下さい。

使用とメンテナンス

- 時計、メタルブレス、ラバーストラップなどは定期的に掃除し、塩水（海水や汗）で濡れてしまった時は歯ブラシと洗剤を薄めたぬるま湯を使い、その後柔らかい布で拭いて下さい。

- 時計やストラップが直接溶剤、洗剤、化粧品、香水などに付かないようにして下さい。ケースやストラップなどが傷む恐れがあります。

- レザーや布製ストラップを油、水、湿気から守って下さい。
また、直射日光に晒したままにしないで下さい。

メートル (m)	フィート (ft)	気圧 (bar)							
30	98.5	3	✓	–	–	–	–	–	
50	164	5	✓	–	–	–	–	–	
100	328	10	✓	✓	✓	✓	✓	–	–
300	984	30	✓	✓	✓	✓	✓	✓	–
1000	3281	100	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
2000	6562	200	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

- 時計を強い磁気を持つ機器（ラジオ、冷蔵庫、スピーカーなど）の近くに置かないで下さい。

- 過度な気温の場所（60度以上、-5度以下）はできるだけ避けて下さい。時計は通常、着用者の体温によって過剰な温度の変動から守られています。

- この為、急激な気温変化（サウナなど）を避けて下さい。

- 時計はその他の機械機器同様、定期的なメンテナンスが必要です。メンテナンスの必要性は使用頻度や方法、天候などにより異なります。
通常は、4〜5年に一度のオーバーホールをお奨めいたします。

  オリスウォッチをお買い求めの販売店にお持込いただくか、オリスサービスセンターにお送り下さい。

- 何か不明な点があれば、お気軽にオリス販売店、オリスサービスセンター、またはオリスHP *www.oris.ch*にご連絡下さい。

日本語

シンボル表示

- 自動巻
- オリス社開発（自動巻）
- 手巻
- ワールドタイマー
- クロノメーター
- アラーム
- 第2時刻表示
- ねじ込み式セーフティリューズ
- ねじ込み式セーフティプッシュボタン
- クイックロック式リューズ
- ヘリウムバルブ
- サファイヤクリスタル
- ミネラルガラス
- プレキシガラス
- 無反射コーティング（内面）
- ルミナスダイヤル
- スーパールミノバ付ルミナスインデックス＆ルミナスハンズ
- スーパールミノバ付ルミナスハンズ
- ダイヤモンド付ダイヤル
- ステンレススチール
- ステンレススチール＆18Kゴールド
- 18Kゴールド
- 5ミクロンゴールドプレート
- ダイヤモンド
- DLC(Diamond like carbon)コーティング
- PVD(Physical Vapour Deposition)コーティング
- チタニウム
- ミネラルガラス付
- 裏スケルトン
- フレキシブルラグ
- ベルト幅
- ラグ外幅
- カーフ（牛革）
- ラバー
- サテン
- クロコダイル
- XX 気圧防水

ケース・ストラップのメタル素材

- オリスが使用している316Lステンレススチールは頑強で耐久性に優れ、ニッケルアレルギーを防ぐための厳しい皮膚科学的基準を満たしています。多くの国や地域ではニッケルに関して、皮膚と直接かつ長時間接触する製品は、遊離量が0.5μg/cm²／週を超えてはならないというニッケル使用制限指令が施行されています。合金のニッケル含有量が重大な要因となっているのではなく、ニッケルが肌に放出される割合が大きな問題となります。316Lステンレススチールは完全にニッケルフリーというわけではありませんが、ニッケルを放出しない素材です。

- オリスが使用しているグレード2チタニウムはインプラントなどにも使用されており、抵抗性、引長強度に優れた素材です。チタニウムの質量はスチールの45%と軽く、耐食性に優れ、肌に優しく触感が温かいのが特徴です。

PVDコーティング

- 物理蒸着法（PVD：Physical Vapour Deposition）は金属薄膜を形成する蒸着法の一つで、真空状態にした空間内で物質を気化させ、近傍に置いた基板上に堆積させて薄膜を形成する蒸着法です。非常に純度の高い金属皮膜の形成が可能で、不活性ガスを混合しイオン化した金属蒸気を発生させて成膜します。時計表面のコーティングにも採用しているこの手法は、最新の地球に優しいコーティング技術です。

- PVDコーティングは粘着性、硬性、耐摩耗性に優れているのが特徴で、表面が非常に滑らかなので時計の部品をコーティングするのに最適です。PVDコーティングは単層・多層の両方が可能で段階的に重ねることができます。層の厚さは1～5ミクロン、場合によってはわずか0.5ミクロンの厚みや15ミクロン以上などでのコーティングも可能です。使用される初期物質や不活性ガスによっては、様々なPVDコーティングが応用できます。基本的にPVDコーティングによる皮膜は窒化物、炭化物、酸化物、カーボン（ダイヤモンドライクカーボン）の主要な4つのグループに分別できます。

DLC（ダイヤモンドライクカーボン）コーティング

- DLCコーティングの工程はPVDコーティングの工程にダイヤモンドライクカーボンを用いたものです。この耐久性・耐摩耗性に優れた黒色のコーティングは、基本的に黒鉛で皮膜した直径数ナノメートルのダイヤモンドによって形成されています。このような手法を一般的にダイヤモンドライクカーボン（DLC）と言い、この技術によりDLCの皮膜は非常に硬い表面を形成します。超硬質ステンレススチールよりも更に硬度と耐摩耗性を増し、耐食性に大変優れ、肌に優しいのも特徴です。

サファイヤクリスタル

- オリスのほとんどのモデルは風防にサファイヤクリスタルを使用しています。

- モース硬度９のサファイヤクリスタルは、クリスタルの中で最も硬い素材です。人工サファイヤでできており、非常に耐傷性に優れています。サファイヤクリスタルよりも固いものはモース硬度10のダイヤモンドだけです。加えてサファイヤクリスタルはミネラルガ

日本語

ラスに比べ耐衝撃性にもとても優れています。

- ダイヤルの視認性を高めるために、オリスで使用しているサファイヤクリスタルのほとんどは、内面に無反射コーティングを施しています。

- 更に視認性を高めるため、いくつかのオリスウォッチのサファイヤクリスタルには両面に無反射コーティングを施しています。着用時、このコーティングされた外層が傷つく場合があります。これは通常の摩滅ですので保証の対象にはなりません。

ミネラルガラス

- ミネラルガラスは汚れがつきにくく視認性にも優れていますが、スクラッチプルーフではありません。そのためオリスでは裏ブタにのみ、このガラスを使用しています。

プレキシガラス

- プレキシガラスまたはアクリルガラスは何度も試行を繰り返し生み出された素材です。視認性、耐衝撃性に優れ、手触りに暖かみがあります。サファイヤクリスタルに比べると傷つきやすいガラスですが、傷がついた場合は研磨機で磨くことができます。

- オリスでは主にロングセラーシリーズのビッグクラウンモデルにプレキシガラスを使用しています。これはオリジナルモデルに使用されていたことに由来するものです。

発光性ダイヤルと針

- オリスではほぼ全モデルの針とダイヤル上インデックスに発光塗料のスーパールミノバを塗布しています。この発光塗料は太陽光や人工光など外部の光を備蓄して発光するもので、放射性の物質は一切含みません。またこの発光塗料には備蓄性があるので、必要に応じて光を蓄えます。

- 発光強度は暗所に入ってすぐの段階が最も強く、最初の60分で急速に弱まります。しかし最初の60分以降は光強度の減少ははるかに小さくなり、その後5〜6時間は暗闇の中でも時間をはっきりと読み取ることが可能です。

- 発光強度を最大限有効にするためには、時計に光（太陽光や人工光など）が当たるのを遮った状態にし続けること（衣服の袖で覆い続けるなど）は避けて下さい。

メタルブレスレット、レザー・ラバーストラップ

- 純正のオリスストラップには裏面とバックルにマークが記されています。

- メタルブレスレットは316Lステンレススチールまたはグレード2チタニウム製です。（“ケース・ストラップのメタル素材”参照）

- オリス製品に使用している革は全て、保護対象とされていないクロコダイル、アリゲーター、オーストリッチ、スティングレイ、リザード、カーフなどの本革です。これはCITES（ワシントン条約：絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約）に則っています。

- オリスのラバーストラップは丈夫で耐久性、耐水性に優れています。使用しているゴム混合物は毒性がなく、潜在的アレルギー成分を含みません。

月齢表

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
1月	❍ 11 ● 26	● 15 ❍ 30	● 4 ❍ 19	❍ 9 ● 23	● 11 ❍ 27	● 1/30 ❍ 16	❍ 5 ● 20	● 10 ❍ 24
2月	❍ 9 ● 25	● 14 ❍ 28	● 3 ❍ 18	❍ 7 ● 21	● 10 ❍ 25	❍ 14	❍ 5 ● 18	● 8 ❍ 22
3月	❍ 11 ● 26	● 15 ❍ 30	● 4 ❍ 19	❍ 8 ● 22	● 11 ❍ 27	● 1/30 ❍ 16	❍ 5 ● 20	● 9 ❍ 23
4月	❍ 9 ● 25	● 14 ❍ 28	● 3 ❍ 18	❍ 4 ● 21	● 10 ❍ 25	❍ 15 ● 29	❍ 4 ● 18	● 7 ❍ 22
5月	❍ 9 ● 24	● 14 ❍ 27	● 3 ❍ 17	❍ 6 ● 20	● 10 ❍ 25	❍ 14 ● 28	❍ 4 ● 18	● 6 ❍ 21
6月	❍ 7 ● 22	● 12 ❍ 26	● 1 ❍ 15	❍ 4 ● 19	● 8 ❍ 22	❍ 13 ● 27	❍ 2 ● 16	● 5 ❍ 20
7月	❍ 7 ● 22	● 11 ❍ 26	● 1/30 ❍ 15	❍ 3 ● 19	● 8 ❍ 22	❍ 12 ● 26	❍ 2/31 ● 16	● 4 ❍ 19
8月	❍ 6 ● 20	● 10 ❍ 24	❍ 13 ● 29	❍ 2/31 ● 17	● 6 ❍ 21	❍ 10 ● 25	● 14 ❍ 29	● 2 ❍ 18
9月	❍ 4 ● 18	● 8 ❍ 23	❍ 12 ● 27	● 16 ❍ 30	● 5 ❍ 19	❍ 9 ● 24	● 13 ❍ 28	● 1 ❍ 16
10月	❍ 4 ● 18	● 7 ❍ 23	❍ 12 ● 26	● 15 ❍ 29	● 5 ❍ 18	❍ 8 ● 23	● 13 ❍ 27	● 1/30 ❍ 16
11月	❍ 2 ● 16	● 6 ❍ 21	❍ 10 ● 25	● 13 ❍ 28	● 3 ❍ 17	❍ 6 ● 22	● 11 ❍ 25	❍ 14 ● 29
12月	❍ 2/31 ● 16	● 5 ❍ 21	❍ 10 ● 24	● 13 ❍ 28	● 3 ❍ 17	❍ 6 ● 22	● 11 ❍ 25	❍ 14 ● 29

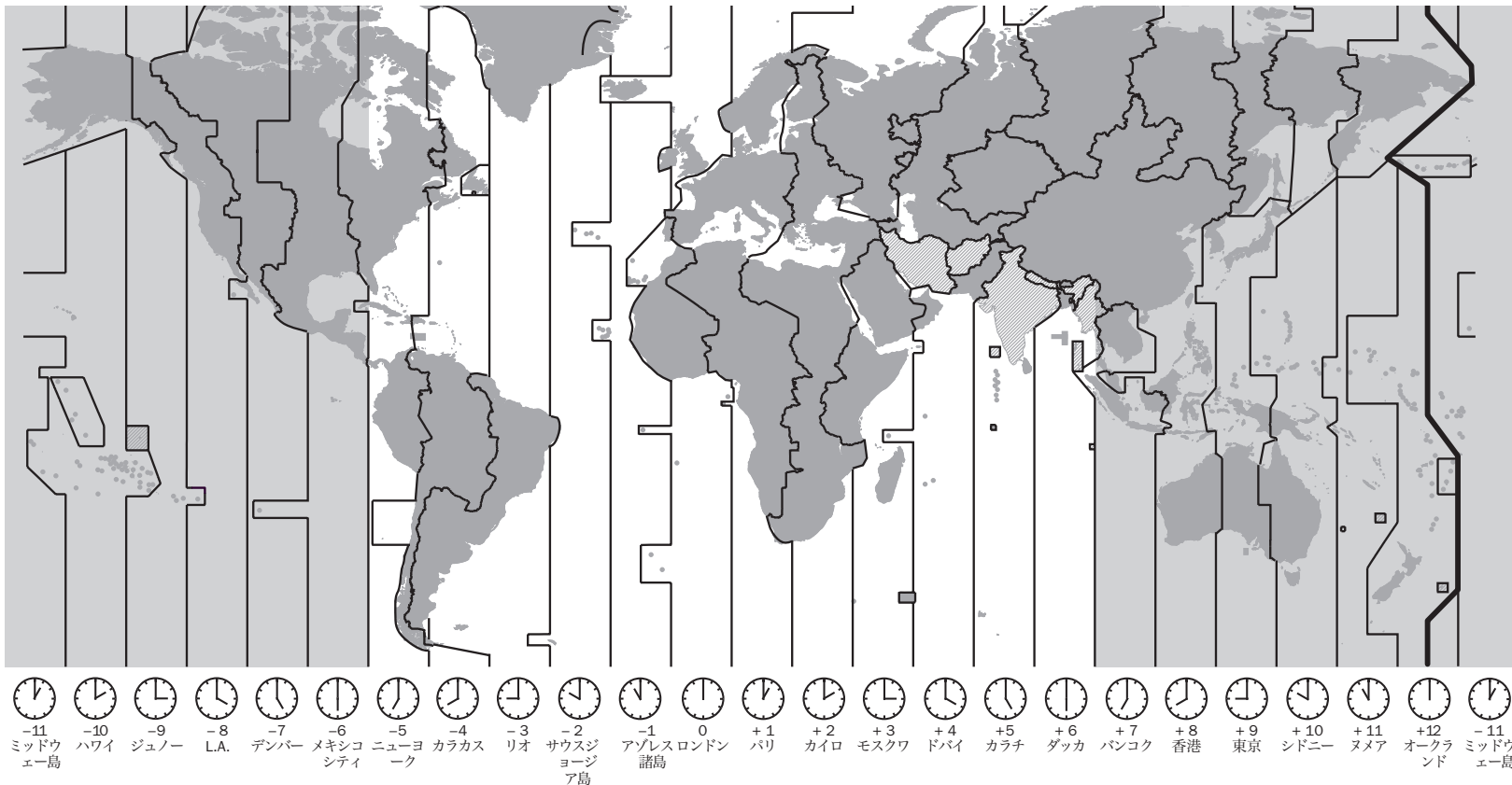
● 新月　❍ 満月

タイムゾーン

- 現在UTC（Universal Coordinated Time：協定世界時）が世界共通の標準時とされています。かつてはグリニッジ標準時（GMT）をベースとしていた世界標準時に代わるものです。UTCとGMTはどちらも経度0度と定められているイギリス・ロンドンのグリニッジ展望台での時刻を基準にしています。ほとんどの地域では、各タイムゾーンの時刻はその場所の経度によって標準時に加算、減算され1時間単位で算出されます。イラン、アフガニスタン、インド、オーストラリアの一部の地域など数ヶ国では、UTC + 3½, 4½, 5½, 9½時間の時刻を採用している場合もあります。

ムーブメント

- 詳細な仕様については、オリス公式サイト *www.oris.ch* をご覧下さい。

日本語

保証書

正しく記載された保証書が添付され下記の諸条件を満たしている場合、オリスは時計をお買い上げの日から2年間無償保証サービスを行います：

本保証は、製品における材質の欠陥や製造時の不具合、またお手元に届いた際にすでに生じていた不具合を保証するものです。本保証は、保証書に品番・購入日等の必要事項が完全に正確に記入され、オリス正規販売店によって捺印され、記載されたシリアルナンバーが時計のものと一致する場合にのみ適用されます。

保証期間中、有効な保証書の提示がある場合、無償にて修理をいたします。また、オリスが修理は不適切と判断した場合は、保証期間内に限り同一モデルもしくは類似モデルと交換いたします。

保証対象とならないもの：

- 通常の使用による磨耗や老化。（外装部分の傷や変色、レザー、サテン、ラバーなど素材の変質など）
- オリス取扱説明書の使用方法に従わなかったために生じた故障。
- 不適切及び正常でない使用、落下等による機械故障、又は不注意、放置、事故、衝突による表面の凹み、潰れ、クリスタルの砕け等の破損。
- オリス社が認可していないサービスセンターでの不適切な修理による損傷。
- オリス社およびオリスサービスセンター以外による改造が行われた時計。
- 販売店などによる追加保証。
- 時計の停止、不正確さから生じたあらゆる間接的損害または二次損傷。

本保証書はお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

こちらに記述されている保証サービスや推奨しているメンテナンスは、オリス正規販売店もしくは各国オリス総代理店で行って下さい。販売店リストは発行日現在の情報です。最新情報はオリスホームページ（*www.oris.ch*）でご確認下さい。

使用上の注意事項

1 時計本体やバンドは肌着類と同様直接肌に接していますので汚れたままのご使用は皮膚がかぶれる場合があります。又、アレルギー体質や皮膚の弱い方も同様のケースが考えられますので、皮膚に異常を感じた時はご使用をお止めいただき、専門医にご相談下さい。

2 皮革バンド類は材質の特性上、水分に濡れると耐久性に影響がでる場合があります。完全防水時計を皮革バンド付で水中で使用される場合は脱色、接着はがれなどの原因になりますので、あらかじめ他の材質のバンド（金属製またはゴム製）にお取り替えの上ご使用下さい。

3 ケースやガラスについた汚れや水分は柔らかい布で拭き、常に清潔にしてご使用下さい。

4 日常生活用強化防水時計の場合、海水に浸した時や多量の汗をかいた後は、真水でよく洗いよく拭き取ってからご使用或いは保管して下さい。

5 時計本体やベルトの汚れがワイシャツ等の袖口を汚す場合がありますので汗やゴミ等の汚れについても注意し、常に清潔にして下さい。

6 水分やホコリのついたままプッシュボタンの操作をしないで下さい。時計内部に水分やホコリが入り損傷をきたす場合があります。

7 時計内部に水が入ったり、ガラス内面にクモリが発生し長時間消えないときはそのまま放置せず、お買い上げ店または、弊社サービスセンターへ修理、点検を依頼して下さい。

8 時計内部に海水が入った場合は、箱やビニール袋等に入れて早急に修理依頼をして下さい。部品（ガラス、ボタンなど）が外れてしまい紛失してしまう危険性があります。

9 バンドの中留め着脱の際に爪や指先を傷つける恐れがありますのでご注意下さい（特に三つ折バックルの場合）。

10 携帯時のバンドサイズは多少余裕を持たせ、通気性を浴してご使用下さい（携帯時のバンドの内側に、指が一本軽く入る程度）。

11 金属バンドは、薄い石鹸水と歯ブラシで部分洗浄をして下さい（ただし時計本体に水分がかからないように保護して下さい）。

12 皮革バンドは表面を柔らかい布で拭き取り、裏面はアルコールで湿らせた布で汚れを拭き取って下さい（汚れがひどい時はバンドを交換して下さい）。

13 プラスチックやゴムバンドは水で濡らし固くしぼった布で拭いて汚れを落として下さい（変質の恐れがありますので洗剤は使用しないで下さい）。

14 長時間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などをよく拭き取り、高温・低音・多湿の場所を避けて時計収納ボックス等に入れて大切に保管して下さい。

使用上の禁止事項

1 日常生活防水の時計の場合は水中でのご使用や水に触れるご使用は避けて下さい。

2 床面に落下する等強い衝撃は故障の原因になりますので、激しいショックは与えないで下さい。

3 直射日光にさらしたり高温になる所に長い時間放置しないで下さい（故障の原因になります）。又、寒い所に長く放置しますと機械に損傷をきたす恐れがあります。

4 磁石には近づけないで下さい。携帯電話のイヤホン部、磁気健康器具、冷蔵庫のマグネットドア、バッグの止め具などは磁石が使用されています。これらの器具に近づけると磁気により時刻が狂います。この場合は直ちに磁石から離して時刻修正をしてください。

5 化学薬品やガス類の中でのご使用はお避け下さい。シンナー・ベンジン等やそれらを含有するもの（ガソリン・マニキュア・クレゾール・トイレ用洗剤・接着剤など）が時計に付着しますと、時計やベルトが変色・溶解・ひび割れ等を起こす場合があり

ます。体温計などに使用されている水銀や薬品類にも十分ご注意下さい。これらの化学物質に触れたりしますと、時計やバンド等が変色することがあります。

6 時計機能調整の為プッシュボタン等を操作する際は先端の鋭利なものでの操作は避けて下さい。指先や時計本体を傷つける恐れがあります。

7 サウナや海水浴場など時計が高温になる場所では火傷の恐れがあるため絶対に着用しないで下さい。

8 サウナや海水浴場など時計が高温になる場所では火傷の恐れがあるため絶対に着用しないで下さい。

⚠ 携帯時の注意事項

1 ウレタンバンドは、持物の染料や汚れが付着し、除去できなくなる場合があります。色落ちするものと接触する場合は十分ご注意下さい。

2 幼児を抱くようなときなどは、時計が幼児の顔等を傷つけたり衣服に損傷を与えないよう十分ご注意下さい。

3 激しい運動や作業などを行うときは、時計がはずれたり第三者に当たったりしてご自身や第三者にけがをさせぬよう十分ご注意下さい。

⚠ 警告
この表示は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

絵表示について

この記号は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。

この記号は、してはいけない「禁止」内容です。

この記号は、必ず実行していただく「強制」内容です。

オーナー証明書

- このリストは情報提供のみを目的とし、保証の契約条件となるものではありません。

第1所有者

日付

名前/住所

備考

第2所有者

日付

名前/住所

備考

第3所有者

日付

名前/住所

備考

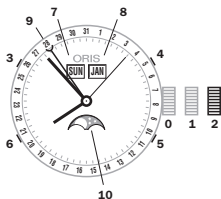
Product Manual Supplement.

Movement 915.

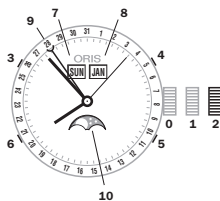
Movement 915

Subject to modifications.

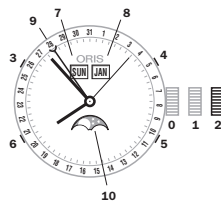
Complication (movement 915).

- The quick date and day adjustment must not be used between 3 p.m. and 1 a.m., because the wheels for the change are active during this time and may be damaged.
- Where fitted, open the screw-down crown or QLC crown in accordance with the instructions in Chapter 1.
- Pull out the crown to position 2.
  - Turn the hand forwards past 12 o'clock until the date changes. Turn the hand further until quarter past three.
- Press pusher 3 with the special tool provided, or with a wooden toothpick, until the desired day of the week is set.
- Press pusher 4 and set the month.
- Press pusher 5 and set the date.
- Press pusher 6 and set the moon display.
  - Since the moon moves a relatively small distance within a 24 hour period, it is best to set the moon setting when there is a new moon or a full moon.
- Use the crown to set the current time – if it is in the afternoon, turn it a further 12 hours.
  - The watch remains stopped when it is in this crown position and it can, for example, be started on a time signal or the crown can be pushed to position 1.
- Push the crown to position 1.
- Where fitted, close the screw-down crown or QLC crown in accordance with the instructions in Chapter 1.

Pos. 0 Crown is closed if it is a screw-down crown or a QLC crown
Pos. 1 Winding position
Pos. 2 Time and moon phase setting
3 Pusher for day of the week setting
4 Pusher for month setting
5 Pusher for date setting
6 Pusher for the moon phase indicator
7 Day of the week indicator
8 Month indicator
9 Date indicator
10 Moon phase indicator

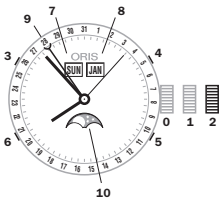
Oris Complication (movimiento 915).

- El ajuste rápido de la fecha y el día no deberá utilizarse entre las 3 pm y las 1 am, ya que las ruedas del cambio se encuentran activas durante este periodo y podrían resultar dañadas.
- En los casos aplicables, abra la corona atornillada o la corona QLC de acuerdo con las instrucciones del Capítulo 1.
- Tire de la corona hasta la posición 2.
  - Adeante la aguja hasta pasadas las 12 en punto y la fecha cambie. Adelante la aguja un poco más hasta las 3 y cuarto.
- Presione el pulsador 3 con la herramienta especial facilitada o una punta de madera hasta obtener la fecha deseada.
- Presione el pulsador 4 y ajuste el mes.
- Presione el pulsador 5 y ajuste la fecha.
- Presione el pulsador 6 y ajuste la visualización lunar.
  - Puesto que la Luna se desplaza una distancia relativamente pequeña en un periodo de 24 h, resulta más adecuado establecer el ajuste lunar cuando haya Luna nueva o Luna llena.
- Proceda a la puesta en hora actual con la corona; si es después del mediodía , gírela otras 12 horas.
  - El reloj permanecerá detenido en esta posición de la corona y puede ponerse en marcha por ejemplo tras una señal temporal o presionarse la corona hasta la posición 1.
- Presione la corona hasta la posición 1.
- En los casos aplicables, cierre la corona atornillada o la corona QLC de acuerdo con las instrucciones del Capítulo 1.

Pos. 0 La corona está cerrada si se trata de una corona atornillada o de una corona QLC
Pos. 1 Posición de armado
Pos. 2 Puesta en hora y ajuste de las fases de la Luna
3 Pulsador de ajuste del día de la semana
4 Pulsador de ajuste del mes
5 Pulsador de ajuste de la fecha
6 Pulsador del indicador de las fases de la Luna
7 Indicador del día de semana
8 Indicador del mes
9 Indicador de calendario
10 Indicador de las fases de la Luna

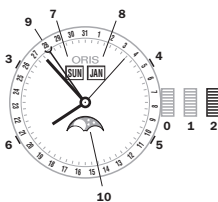
Complicação Oris (movimento 915).

- Não utilizar o acerto rápido da data e do dia entre as 15 h e as 1 h, uma vez que as rodas de mudança estão activas durante este período e podem ficar danificadas.
- Se o relógio estiver equipado com este sistema, abrir a coroa aparafusada ou a coroa QLC, de acordo com as instruções indicadas do Capítulo 1.
- Puxar a coroa para a posição 2.
  - Rodar para fazer avançar o ponteiro, até passar as 12 horas e a data mudar. Continuar a rodar para fazer avançar o ponteiro até atingir as três e um quarto.
- Premir o botão 3 com a ferramenta especial fornecida ou com uma pequena haste de madeira, até ser exibido o dia da semana pretendido.
- Premir o botão 4 e acertar o mês.
- Premir o botão 5 e acertar a data.
- Premir o botão 6 e acertar o indicador das fases da lua.
  - Uma vez que a lua se desloca uma distância relativamente curta num período de 24 h, recomenda-se que a fase da lua seja acertada aquando de lua nova ou de lua cheia.
- Utilizar a coroa para acertar a hora actual – se for do período da tarde, rodar mais 12 horas.
  - O relógio mantém-se parado quando a coroa está nesta posição, podendo, por exemplo, ser colocado em funcionamento em simultâneo com um sinal horário ou a coroa empurrada para a posição 1.
- Empurrar a coroa para a posição 1.
- Se o relógio estiver equipado com este sistema, fechar a coroa aparafusada ou a coroa QLC, de acordo com as instruções indicadas do Capítulo 1.

Pos. 0 A coroa está fechada se se tratar de uma coroa aparafusada ou de uma coroa QLC
Pos. 1 Posição de dar corda
Pos. 2 Acerto da hora e regulação das fases da lua
3 Botão de acerto do dia da semana
4 Botão de acerto do mês
5 Botão de acerto da data
6 Botão do indicador das fases da lua
7 Indicador do dia da semana
8 Indicador do mês
9 Indicador do calendário
10 Indicador das fases da lua

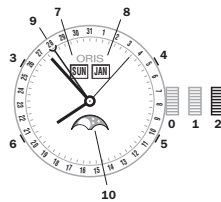
Complicazione Oris (movimento 915).

- La correzione rapida della data e del giorno non deve essere eseguita tra le 15:00 e le 01:00, in quanto il meccanismo ha già iniziato la procedura del cambio di data e potrebbe danneggiarsi.
- Sbloccare la corona avvitata o la corona QLC (se l'orologio ne è dotato) secondo le istruzioni fornite al capitolo 1.
- Estrarre la corona in posizione 2.
  - Far avanzare la lancetta oltre le ore 12 fino al cambio di data. Fare avanzare ancora la lancetta fino alle tre e un quarto.
- Premere il pulsante 3 con lo speciale attrezzo in dotazione o con un'astina di legno fino a impostare il giorno della settimana desiderato.
- Premere il pulsante 4 e impostare il mese.
- Premere il pulsante 5 e impostare la data.
- Premere il pulsante 6 e impostare la fase lunare.
  - Poiché in un periodo di 24 ore la luna percorre una distanza relativamente breve, è consigliabile regolare le fasi lunari con la luna nuova o la luna piena.
- Regolare l'ora corrente mediante la corona, eseguire un giro supplementare di 12 ore per il pomeriggio.
  - Quando la corona è in questa posizione, l'orologio si ferma e può essere riavviato, ad esempio, al segnale orario o riportando la corona in posizione 1.
- Premere la corona in posizione 1.
- Bloccare la corona avvitata o la corona QLC (se l'orologio ne è dotato) secondo le istruzioni fornite al capitolo 1.

Pos. 0 Corona bloccata in caso di corona avvitata o corona QLC
Pos. 1 Posizione di carica
Pos. 2 Regolazione dell'ora e delle fasi lunari
3 Pulsante di regolazione del giorno della settimana
4 Pulsante di regolazione del mese
5 Pulsante di regolazione della data
6 Pulsante per l'indicatore delle fasi lunari
7 Indicatore del giorno della settimana
8 Indicatore del mese
9 Indicatore della data
10 Indicatore delle fasi lunari

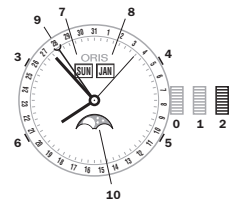
Oris Complication (Werk 915).

- Die Datum- und Tages-Schnellkorrektur dürfen zwischen 1500 h und 0100 h nicht vorgenommen werden, da sich die Räder für die Schaltung im Eingriff befinden und eventuell beschädigt werden können.
- Sofern vorhanden, verschraubte Krone oder QLC-Krone gemäss Anleitung im 1. Kapitel öffnen.
- Krone in Pos. 2 ziehen.
  - Zeiger vorwärts drehen über 12 h bis das Datum schaltet. Zeiger weiter drehen bis 0315 h.
- Drücker 3 mit mitgeliefertem Spezialwerkzeug oder mit Zahnstocher aus Holz, pressen, bis gewünschter Wochentag eingestellt ist.
- Drücker 4 pressen und Monat einstellen.
- Drücker 5 pressen und Datum einstellen.
- Drücker 6 pressen und Mondanzeige einstellen.
  - Da die Verschiebung des Mondes innerhalb von 24 h relativ gering ist, ist die Mondeinstellung am besten bei Neumond oder Vollmond vorzunehmen.
- Aktuelle Zeit mit Krone einstellen – 12 Stunden weiterdrehen falls Nachmittag ist.
  - Uhr ist in dieser Kronenposition immer noch gestoppt und kann z.B. auf ein Zeitzeichen gestartet werden resp. Krone in Pos. 1 gedrückt werden.
- Krone in Pos. 1 drücken.
- Sofern vorhanden, verschraubte Krone oder QLC-Krone gemäss Anleitung im 1. Kapitel schliessen.

Pos. 0 Krone geschlossen bei verschraubter Krone oder bei QLC-Krone
Pos. 1 Aufzugstellung
Pos. 2 Zeit- und Mondeinstellung
3 Drücker für Wochentageinstellung
4 Drücker für Monatseinstellung
5 Drücker für Datumeinstellung
6 Drücker für Mondanzeigeeinstellung
7 Wochentaganzeige
8 Monatsanzeige
9 Datumanzeige
10 Mondanzeige

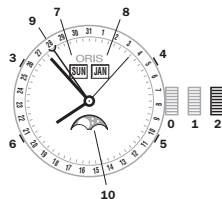
Oris Complication (mouvement 915).

- La correction rapide du quantième et du jour ne doit pas être effectuée entre 15 h 00 et 01 h 00 car le mécanisme est engagé en vue du changement et risque d'être endommagé.
- Libérer la couronne vissée ou la couronne QLC (si la montre en est équipée) conformément aux instructions fournies au chapitre 1.
- Tirer la couronne en position 2.
  - Faire avancer les aiguilles au-delà de 12 h jusqu'à ce que le quantième change. Faire avancer les aiguilles jusqu'à 3 h 15.
- Appuyer sur le poussoir 3 à l'aide de l'outil spécial fourni ou d'une petite tige en bois jusqu'à ce que le jour de la semaine souhaité soit réglé.
- Appuyer sur le poussoir 4 et régler le mois.
- Appuyer sur le poussoir 5 et régler le quantième.
- Appuyer sur le poussoir 6 et régler l'indicateur de phases de lune.
  - Comme le déplacement de la lune est quasiment insignifiant en 24 h, il est préférable de procéder au réglage de la phase de lune à la nouvelle lune ou à la pleine lune.
- Régler l'heure actuelle avec la couronne, effectuer un tour de cadran supplémentaire pour l'après-midi.
  - La montre est arrêtée quand la couronne est dans cette position et peut être remise en marche par ex. au top en pressant la couronne en position 1.
- Pousser la couronne en position 1.
- Bloquer la couronne vissée ou la couronne QLC (si la montre en est équipée) conformément aux instructions fournies au chapitre 1.

Pos. 0 Couronne bloquée pour couronne vissée ou couronne QLC
Pos. 1 Position de remontage
Pos. 2 Mise à l'heure et réglage des phases de lune
3 Poussoir de réglage du jour de la semaine
4 Poussoir de réglage du mois
5 Poussoir de réglage du quantième
6 Poussoir de réglage de la phase de lune
7 Indicateur du jour de la semaine
7 Indicateur du mois
9 Indicateur de quantième
10 Indicateur des phases de lune

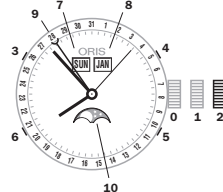
Oris Complicatie (uurwerk 915).

- Gebruik de snelle datum- en daginstelling niet tussen 15.00 en 1.00 uur, omdat de tandwielen voor de wijziging gedurende deze periode actief zijn en beschadigd kunnen raken.
- Indien aanwezig, open de geschroefde kroon of QLC-kroon in overeenstemming met de instructies in Hoofdstuk 1.
- Trek de kroon uit in positie 2.
  - Draai de wijzer vooruit tot na 12 uur, totdat de datum verandert. Draai de wijzer verder tot kwart over drie.
- Druk knop 3 in met het speciale meegeleverde gereedschap, of met een houten tandenstoker, totdat de gewenste dag is ingesteld.
- Druk knop 4 in en stel de maand in.
- Druk knop 5 in en stel de datum in.
- Druk knop 6 in en stel de maanfase in.
  - ➜ Aangezien de maan zich relatief weinig verplaatst in een periode van 24 uur, kunt u de maanfase het best instellen bij nieuwe maan of volle maan.
- Gebruik de kroon om de huidige tijd in te stellen – als het in de middag is, draai de tijd dan nog eens 12 uur verder.
  - ➜ Als de kroon in deze positie staat, blijft het horloge stilstaan. Het kan bijvoorbeeld weer worden geactiveerd op een tijdsignaal of door de kroon in positie 1 te zetten.
- Druk de kroon in positie 1.
- Indien aanwezig, sluit de geschroefde kroon of QLC-kroon in overeenstemming met de instructies in Hoofdstuk 1.

Pos. 0 kroon is gesloten als het een geschroefde kroon of een QLC-kroon betreft
Pos. 1 voor opwinden
Pos. 2 voor instellen van tijd en maanfase
3 Drukknop voor daginstelling
4 Drukknop voor maandinstelling
5 Drukknop voor datuminstelling
6 Drukknop voor de maanfase
7 Dagweergave
8 Maandweergave
9 Datumweergave
10 Weergave van de maanfase

Oris Complication (urverk 915).

- Snabbinställningen av datum och dag får inte användas mellan kl. 15 och 01, eftersom ändringshjulen är aktiva under denna tid och kan skadas.
- Lossa i förekommande fall den skruvsäkrade kronan eller QLC-kronan enligt anvisningarna i kapitel 1.
- Dra ut kronan till läge 2.
  - Vrid visaren framåt förbi klockan 12 tills datumet ändras. Fortsätt att vrida visaren till kvart över tre.
- Tryck på knapp 3 med det medföljande specialverktyget eller en tandpetare av trä tills önskad veckodag visas.
- Ställ in månad med knapp 4.
- Ställ in datum med knapp 5.
- Ställ in månfas med knapp 6.
  - ➜ Eftersom månen rör sig relativt kort under ett dygn är det bäst att ställa in månfasen vid nymåne eller fullmåne.
- Ställ in aktuell tid med kronan – vrid ytterligare 12 timmar för eftermiddag.
  - ➜ Klockan går inte när kronan är i det här läget. Den kan exempelvis startas på tidssignal eller kronan kan tryckas in till läge 1.
- Tryck in kronan till läge 1.
- Lås i förekommande fall den skruvsäkrade kronan eller QLC-kronan enligt anvisningarna i kapitel 1.

Läge 0 Låst krona, för skruvsäkrad krona eller en QLC-krona
Läge 1 Uppdragningsläge
Läge 2 Inställning av tid och månfas
3 Knapp för inställning av veckodag
4 Knapp för inställning av månad
5 Knapp för inställning av datum
6 Knapp för visning av månfaser
7 Veckodagsvisning
8 Månadsvisning
9 Datumvisning
10 Visning av månfaser

Oris Complication (часовой механизм 915).

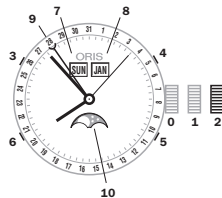
- Функция быстрой установки даты и дня недели не должна использоваться в период между 15.00 и 1.00, поскольку можно повредить отвечающие за смену даты колесики часового механизма, действующие в этот период времени.
- Следуя инструкциям, приведенным в главе 1, отверните завинчивающуюся заводную головку или головку QLC, если она установлена
- Вытяните заводную головку в положение 2.
  - Поворачивайте стрелку вперед за отметку 12 часов, пока не изменится дата.Поворачивайте стрелку, пока она не укажет время 3.15.
- Специальным инструментом или зубочисткой нажимайте кнопку 3, пока не будет установлен нужный день недели.
- Нажмите кнопку 4 и установите месяц.
- Нажмите кнопку 5 и установите число.
- Нажмите 6 и настройте указатель фазы луны.
  - ➜ Так как в течение суток Луна перемещается на относительно небольшое расстояние, фазы луны рекомендуется устанавливать в новолуние или полнолуние.
- С помощью заводной головки установите время – если позже 12 часов дня, то поверните стрелки на 12 часов вперед.
  - ➜ Когда заводная головка находится в этом положении, часы остановлены. Их можно запустить по сигналу точного времени, или можно вытянуть заводную головку в положение 1.
- Вытяните заводную головку в положение 1.
- Следуя инструкциям, приведенным в главе 1, заверните завинчивающуюся заводную головку или головку QLC, если она установлена.

Пол. 0 Заводная головка завернута (завинчивающаяся головка или головка QLC)
Пол. 1 Подзавод
Пол. 2 Установка времени и фазы луны
3 Кнопка для установки дня недели
4 Кнопка для установки месяца
5 Кнопка для установки числа
6 Кнопка указателя фазы луны
7 Указатель дня недели
8 Указатель месяца
9 Указатель даты
10 Указатель фазы луны

Годинник Oris Complication (механізм 915).

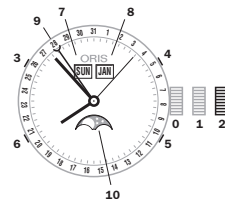
- Швидке налаштування дати та дня тижня забороняється проводити в проміжку часу між 3 годиною вечора та 1 годиною ночі, оскільки зубчасті колеса, які використовуються при налаштуванні, в цей час активізуються механізмом годинника і зовнішнє втручання може призвести до їх пошкодження.
- Встановіть в відкрите положення загвинчувану головку або головку з швидкою фіксацією, якщо вони є в наявності, у відповідності з інструкціями, що містяться в главі 1.
- Витягніть головку в положення 2.
  - Крутячи стрілку вперед, пройдіть 12 годину та дійдіть до зміни дати. Крутіть стрілку далі, до положення чверть на четверту.
- Натискаючи кнопку 3 спеціальним інструментом з комплекту, або дерев'яною зубочисткою, встановіть потрібний день тижня.
- Натискаючи кнопку 4, встановіть місяць.
- Натискаючи кнопку 5, встановіть дату.
- Натискаючи кнопку 6, встановіть відображення фази місяця.
  - Оскільки місяць за добу зміюється порівняно мало, найкраще встановлювати фазу місяця тоді. коли він повний або новий.
- Для налаштування поточного часу використовується головка – якщо потрібно встановити час після полудня, слід перевести стрілки додатково на 12 годин.
  - При такому положенні головки годинник залишається у призупиненому стані і його можна запустити по сигналу точного часу, або просто натиснувши головку та перевівши її в положення 1.
- Натиснувши головку, переведіть її в положення 1.
- Встановіть в закрите положення загвинчувану головку або головку з швидкою фіксацією, якщо вони є в наявності, у відповідності з інструкціями, що містяться в главі 1.

Позиція. 0 Головка в закритому положенні (для загвинчуваної головки або головки з швидкою фіксацією
Позиція. 1 Позиція заведення годинника
Позиція. 2 Налаштування часу та фази місяця
3 Кнопка налаштування дня тижня
4 Кнопка налаштування місяця
5 Кнопка налаштування дати
6 Кнопка покажчика фази місяця
7 Покажчик дня тижня
8 Покажчик місяця
9 Покажчик дати
10 Покажчик фази місяця

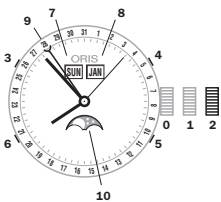
Oris Komplikace (mechanismus 915).

- Rychlé nastavení času a dne nesmí být prováděno mezi 3. a 1. hodinou, protože v tuto je dobu mechanismus změny data aktivní a mohl by být poškozen.
- Podle modelu uvolněte klasickou korunku pro nastavení nebo QLC korunku, přičemž postupujte podle instrukcí uvedených v kapitole 1.
- Korunku vytáhněte do polohy 2.
  - Pro změnu data otáčejte ručkou směrem dopředu přes ukazatel 12 hodin. Poté pokračujte v otáčení ručky až na hodnotu času čtvrt na čtyři.
- Pomocí nástroje dodaného spolu s hodinkami, případně dřevěného párátka, stiskněte opakovaně tlačítko 3 až do zobrazení požadovaného dne v týdnu.
- Stisknutím tlačítka 4 nastavte měsíc.
- Stisknutím tlačítka 5 nastavte datum.
- Stisknutím tlačítka 6 nastavte měsíční fázi.
  - Protože v rámci 24 hodinových cyklů je pohyb měsíce hůře zaznamenatelný, je měsíční fázi nejvhodnější nastavit, když je měsíc v novu nebo v úplňku.
- Pro nastavení aktuálního času použijte korunku - pokud nastavujete čas odpoledne, nezapomeňte ručku nechat přejít přes 12. hodinu.
  - Když je korunka v této poloze, hodinky stojí. Toho lze například využít pro jejich spuštění spolu s časovým signálem, současně se kterým může být korunka zatlačena zpět do polohy 1.
- Tlakem uveďte korunku do polohy 1.
- Podle modelu zablokujte klasickou korunku pro nastavení nebo QLC korunku, přičemž postupujte podle instrukcí uvedených v kapitole 1.

Pozice 0: Korunka je v zablokované poloze, ať se jedná o klasickou nebo QLC korunku
Pozice 1: Poloha pro otáčení
Pozice 2: Nastavení času a měsíční fáze
3 Tlačítko pro nastavení dne v týdnu
4 Tlačítko pro nastavení měsíce
5 Tlačítko pro nastavení data
6 Tlačítko pro ukazatel měsíční fáze
7 Ukazatel dne v měsíci
8 Ukazatel měsíce
9 Ukazatel data
10 Ukazatel měsíční fáze

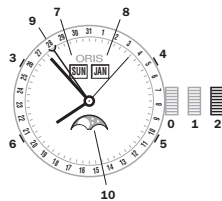
Oris Komplikasyon (makine 915).

- Hızlı takvim ve gün değişiklikleri saat 15:00 ile 01:00 arasında yapılmamalıdır çünkü çarklar yeni güne geçmek için aktiftir ve zarar görebilir.
- Vidalı tepeyi ya da QLC tepeyi birinci bölümdeki talimatlara göre açın.
- Tepeyi çekerek 2. konuma getirin
  - Akrep yelkovanı 12:00'ı geçip tarih değişinceye dek çevirin. Akrep yelkovanı üçü çeyrek geçeyi gösterene dek çevirin.
- 3'ncü düğmeye verilen özel bir aparat veya bir kürdan yardımıyla, haftanın istenilen gününe gelinceye dek basın.
- 4'ncü düğmeye basın ve ayı ayarlayın.
- 5'nci düğmeye basın ve tarihi ayarlayın.
- 6'nci düğmeye basın ve ayın görüntüsünü ayarlayın.
  - 24 saatlik sürede ay oldukça az hareket ettiğinden dolayı, ayın halleri ayarını yeni ay veya dolunayda yapmak daha doğru olacaktır.
- Tepeyi kullanarak saatinizi ayarlayın – eğer vakit öğleden sonra ise 12 saatlik bir tur daha çevirin.
  - Saat bu tepe konumunda çalışmaz ve örneğin saat sinyaliyle veya tepe 1'nci konuma getirildiğinde çalışmaya başlatılabilir.
- Tepeyi 1'nci konuma getirin.
- Vidalı tepeyi ya da QLC tepeyi birinci bölümdeki açıklamalara göre kapatın.

0 Konumu: Eğer bir vidalı tepe veya bir QLC tepe ise tepe kapalı
1'nci konum: Kurma konumu
2'nci konum: Saat ve ay evresi ayarı
3 Gün ayarı düğmesi
4 Ay ayarı düğmesi
5 Tarih ayarı düğmesi
6 Ay evre göstergesi düğmesi
7 Haftanın günü göstergesi
8 Ay göstergesi
9 Tarih göstergesi
10 Ay evre göstergesi

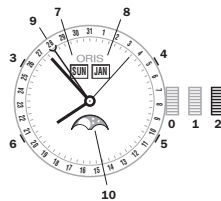
Ιδιαιτερότητα Oris (κίνηση 915).

- Η γρήγορη ρύθμιση ημερομηνίας και ώρας δεν πρέπει να χρησιμοποιείται μεταξύ 3 μ.μ. και 1 π.μ., επειδή εκείνες τις ώρες οι τροχοί, που χρησιμεύουν για αυτήν την αλλαγή, είναι ενεργοί και ενδέχεται να υποστούν ζημιά.
- Εφόσον υπάρχει, ανοίξτε τη βιδωτή κορώνα ή την κορώνα QLC, σύμφωνα με τις οδηγίες του Κεφαλαίου 1.
- Τραβήξτε την κορώνα προς τα έξω στη θέση 2.
  - Γυρίστε το δείκτη προς τα εμπρός μετά την ένδειξη ώρας 12, έως ότου αλλάξει η ημερομηνία. Γυρίστε το δείκτη ακόμη περισσότερο, έως τις τρεις και τέταρτο.
- Πιέστε το κουμπί 3 με το ειδικό εργαλείο που παρέχεται ή με μια ξύλινη οδοντογλυφίδα, έως ότου ρυθμιστεί η επιθυμητή ημέρα της εβδομάδας.
- Πιέστε το κουμπί 4 και ρυθμίστε το μήνα.
- Πιέστε το κουμπί 5 και ρυθμίστε την ημερομηνία.
- Πιέστε το κουμπί 6 και ρυθμίστε την ένδειξη σελήνης.
  - Επειδή η σελήνη καλύπτει σχετικά μικρή απόσταση σε διάστημα 24 ωρών, είναι προτιμότερο να ρυθμίζετε τη σελήνη, όταν υπάρχει νέα σελήνη ή πανσέληνος.
- Χρησιμοποιήστε την κορώνα για να ρυθμίσετε την τρέχουσα ώρα – εάν είναι απογευματινή ώρα, γυρίστε την κατά επιπλέον 12 ώρες.
  - Το ρολόι παραμένει σταματημένο, όταν βρίσκεται σε αυτήν τη θέση κορώνας και μπορεί, για παράδειγμα, να ξεκινήσει με ένα χρονικό σήμα ή μπορείτε να πιέσετε την κορώνα στη θέση 1.
- Πιέστε την κορώνα στη θέση 1.
- Εφόσον υπάρχει, κλείστε τη βιδωτή κορώνα ή την κορώνα QLC, σύμφωνα με τις οδηγίες του Κεφαλαίου 1.

Θέση 0 Η κορώνα είναι κλειστή, εάν είναι βιδωτή κορώνα ή κορώνα QLC
Θέση 1 Θέση κουρδίσματος
Θέση 2 Ρύθμιση ώρας και φάσης σελήνης
3 Κουμπί ρύθμισης ημέρας της εβδομάδας
4 Κουμπί ρύθμισης μήνα
5 Κουμπί ρύθμισης ημερομηνίας
6 Κουμπί ένδειξης φάσης σελήνης
7 Ένδειξη ημέρας της εβδομάδας
8 Ένδειξη μήνα
9 Ένδειξη ημερομηνίας
10 Ένδειξη φάσης σελήνης

Oris（豪利时）Complication系列（机芯915）.

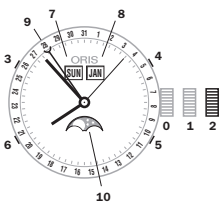
- 切勿在腕表时间晚上3点到凌晨1点之间使用快速日期和星期调节功能，此时用于变更设置的拨针轮盘仍在工作，这样做可能会损坏拨针轮盘。
- 针对具体情况，可根据第1章中的说明旋开螺旋上锁表冠或QLC表冠。
- 将表冠拉出至位置2。
  - 将指针向前转动至越过12点的位置，直至日期发生变更。然后将指针继续转动至3点15分的位置。
- 使用附带的专用工具或木制牙签按压按钮3，直至调整到期望的星期。
- 按压按钮4并设置月份。
- 按压按钮5并设置日期。
- 按压按钮6并设置月相显示。
  - 由于月亮每隔24小时都会移动一小段距离，因此建议在腕表上新月或满月出现时调整月相设置。
- 使用表冠设置当前时间 — 如腕表时间处于下午时分，可将表冠再转动12个小时。
  - 表冠处于该位置时，腕表为停止状态，此时腕表可根据时间信号启动，也可将表冠按压到位置1。
- 将表冠按压到位置1。
- 针对具体情况，根据第1章中的说明锁紧螺旋上锁表冠或QLC表冠。

位置 0 螺旋上锁表冠或QLC表冠处于锁紧状态
位置 1 上弦位置
位置 2 时间和月相设置
3 星期设置按钮
4 月份设置按钮
5 日期设置按钮
6 月相指示器按钮
7 星期指示器
8 月份指示器
9 日期指示器
10 月相指示器

Oris複雜功能（機芯915）.

- 請勿於晚間3點至凌晨1點間使用日期和星期快速調校，因為此時變換齒輪正在運作並可能因此受損。
- 按照第1章的指示解鎖旋入式或QLC錶冠。
- 將錶冠拉出至位置2。
  - 將指針向前轉動通過12點鐘，直到日期變換。繼續轉動指針，直到其指向三點一刻。
- 以隨附之工具或木製牙籤按壓按鈕3，直到顯示出正確的星期。
- 按壓按鈕4以設定月份。
- 按壓按鈕5以設定日期。
- 按壓按鈕6以設定月相顯示。
  - 由於月相的變換在24小時中演進相對緩慢而細微，因此設定月相以新月或滿月時為佳。
- 利用錶冠設定當下時間 - 若時間為下午，請向前多轉動12小時。
  - 錶冠於此位置時腕錶將維持靜止狀態，您可於整點報時訊號響起時重新將之啟動，或將錶冠壓入至位置1。
- 將錶冠壓入至位置1。
- 按照第1章的指示鎖緊旋入式或QLC錶冠。

位置 0 若為旋入式或QLC錶冠為鎖定位置
位置 1 上鏈位置
位置 2 時間和月相設定
3 星期設定按鈕
4 月份設定按鈕
5 日期設定按鈕
6 月相顯示用按鈕
7 星期顯示
8 月份顯示
9 日期顯示
10 月相顯示

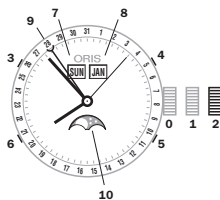
オリス コンプリケーション（ムーブメント 915）.

▸午後 3 時から午前 1 時の間は日付および曜日の早送り調整を行わないでください。この間は日付変更用歯車が作動しているため、調整を行うとムーブメントを損傷するおそれがあります。
▸ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズをチャプター 1 の指示に従ってロック解除して下さい。
▸リューズを 2 の位置まで引いて下さい。
 ▸12 時を過ぎて日付が変わるまでリューズを回して針を進めます。針を 3 時 15分まで進めます。
▸付属の専用ツールまたは爪楊枝等でプッシュボタン 3を押して希望の曜日にセットします。
▸プッシュボタン 4 を押して月をセットします。
▸プッシュボタン 5を押して日付をセットします。
▸プッシュボタン 6を押してムーンフェイズをセットします。
 ➊月は 24 時間を 1 周期として少しずつ動いているので、月のセットを行うのは新月または満月のときが最適です。
▸リューズを使用して現在の時刻をセットします。午後の時刻にセットする場合は、針を もう 1 周回します。

➊このリューズの位置にすると秒針が停止します。リューズを1の位置に押し戻すと時報に合わせた時刻で使用開始できます。
▸リューズを 1 の位置に押し戻して下さい。
▸ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズをチャプター 1 の指示に従ってロックして下さい。

位置 0 リューズロック状態（ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズの場合）
位置 1 ゼンマイ巻上げ位置
位置 2 時刻とムーンフェイズセット位置
3 曜日セットプッシュボタン
4 月セットプッシュボタン
5 日付セットプッシュボタン
6 ムーンフェイズセットプッシュボタン
7 曜日表示
8 月表示
9 日付表示
10 ムーンフェイズ表示

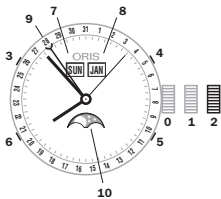
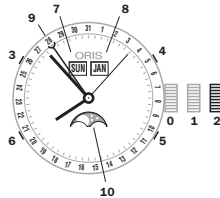
오리스 컴플리케이션(무브먼트 915).

▸오후 3시에서 오전 1시 사이에는 날짜 및 요일 변경 장치가 작동하고 있어 손상될 수 있으므로 빠른 날짜 및 요일 조정을 사용하지 마십시오.
▸1장의 설명대로 잠김방식 크라운 또는 퀵락 크라운을 풀어주십시오.
▸크라운을 2번 위치까지 당겨주십시오.
 ▸12시 정각을 지나서 날짜가 변경될 때까지 바늘을 앞으로 돌려주십시오. 3시 15분이 될 때까지 바늘을 추가로 돌려주십시오.
▸원하는 요일이 설정될 때까지 제공된 특수 도구나 나무 이쑤시개를 사용해 3번 푸셔를 눌러주십시오.
▸4번 푸셔를 누르고 월을 설정하십시오.
▸5번 푸셔를 누르고 날짜를 설정하십시오.
▸6번 푸셔를 누르고 달 디스플레이를 설정하십시오.
 ➊24시간 동안 달의 이동거리가 상대적으로 짧으므로 초승달이나 보름달일 때 달을 설정하는 것이 가장 좋습니다.
▸크라운을 사용해 현재 시간을 설정하십시오. 오후일 경우 크라운을 12시간 더 돌려주십시오.
 ➊크라운이 이 위치일 때 시계는 멈춰 있고 시간 신호에 맞춰 시작되거나 크라운을 1번 위치로 밀 수 있습니다.
▸크라운을 1번 위치로 밀어주십시오.

▸1장의 설명대로 잠김방식 크라운 또는 퀵락 크라운을 잠가주십시오.

0번 위치 잠김방식 크라운 또는 퀵락 크라운일 경우 크라운이 잠겨 있습니다.
1번 위치 와인딩 위치
2번 위치 시간 및 문페이즈 조정
3 요일 조정 푸셔
4 월 조정 푸셔
5 날짜 조정 푸셔
6 문페이즈 표시창 푸셔
7 요일 표시창
8 달 표시창
9 날짜 표시창
10 문페이즈 표시창

โอริส คอมพลิเคชั่น (กลไก 915).

▸ห้ามใช้งานระบบปรับวันที่และวันแบบด่วนในระหว่างเวลา 15 นาฬิกา ถึง 1 นาฬิกา เนื่องจากเฟืองที่ใช้ในการปรับจะทำงานในช่วงเวลาดังกล่าว ซึ่งอาจทำให้เฟืองเสียหายได้
▸ให้คลายเม็ดมะยมแบบหมุนเกลียวลงหรือเม็ดมะยมแบบคิวแอลซี (ตามที่มีติดตั้งอยู่) ตามคำแนะนำในบทที่ 1
▸ดึงเม็ดมะยมไปที่ตำแหน่ง 2
 ▸หมุนเข็มเดินหน้าจนผ่านเวลา 24 นาฬิกา และมีการเปลี่ยนวัน หมุนเข็มต่อไปจนกระทั่งถึงเวลา 3 นาฬิกา 15 นาที
▸กดตัวปรับ 3 โดยใช้เครื่องมือพิเศษที่เตรียมไว้ให้ หรือใช้ไม้จิ้มฟันที่ทำด้วยไม้ จนกระทั่งได้วันและสัปดาห์ที่ต้องการ
▸กดตัวปรับ 4 เพื่อปรับเดือน
▸กดตัวปรับ 5 เพื่อปรับวันที่
▸กดตัวปรับ 6 เพื่อปรับการแสดงข้างขึ้น-ข้างแรม
 ➊เนื่องจากส่วนแสดงข้างขึ้น-ข้างแรมจะมีการเคลื่อนที่ค่อนข้างน้อยในรอบ 24 ชั่วโมง จึงควรปรับการแสดงข้างขึ้น-ข้างแรมในวันที่เป็นคืนเดือนมืดหรือพระจันทร์เต็มดวง
▸ใช้เม็ดมะยมเพื่อปรับเวลาปัจจุบัน ถ้าเป็นเวลาหลังเที่ยงวันไปแล้ว ให้ปรับตามรอบ 12 ชั่วโมงไปอีกหนึ่งรอบ
 ➊นาฬิกาจะยังคงไม่เดินเมื่อเม็ดมะยมอยู่ที่ตำแหน่งนี้ แต่จะสามารถเดินต่อได้ เช่น เมื่อเริ่มสัญญาณเวลา หรือเมื่อกดเม็ดมะยมไปที่ตำแหน่ง 1
▸กดเม็ดมะยมไปที่ตำแหน่ง 1

▸ให้ล็อคเม็ดมะยมแบบหมุนเกลียวลงหรือเม็ดมะยมแบบคิวแอลซี(ตามที่มีติดตั้งอยู่) ตามคำแนะนำในบทที่ 1

ตำแหน่งที่ 0 ตำแหน่งล็อคสำหรับเม็ดมะยมแบบหมุนเกลียวลงหรือเม็ดมะยมแบบคิวแอลซี
ตำแหน่งที่ 1 ตำแหน่งการหมุน
ตำแหน่งที่ 2 ตำแหน่งการปรับเวลาและการแสดงข้างขึ้น-ข้างแรม
3 ตัวปรับวันและสัปดาห์
4 ตัวปรับเดือน
5 ตัวปรับวัน
6 ตัวปรับส่วนแสดงข้างขึ้น-ข้างแรม
7 ส่วนแสดงวันของสัปดาห์
8 ส่วนแสดงเดือน
9 ส่วนแสดงวันที่
10 ส่วนแสดงข้างขึ้น-ข้างแรม

Oris Complication
(آلية الحركة 915)

- لا ينبغي إجراء الضبط السريع للتاريخ واليوم بين الساعة 3 مساءً والساعة 1 صباحًا لأن طارات التغيير تنشط في هذه الفترة وقد تتلف.
- افتح تاج الضبط المربوط أو التاج المجهز بنظام QLC إذا كانت الساعة مجهزة به مع مراعاة التعليمات الواردة في فصل 1.
- اسحب تاج الضبط إلى الوضع 2.
  - أدر العقرب للأمام متجاوزًا الساعة 12 إلى أن يتغير التاريخ. أدر العقرب للأمام حتى الساعة الثالثة والربع.
- ادفع الزر الكباس 3 بواسطة الأداة الخاصة الموردة أو بواسطة عود أسنان خشبي، إلى أن يتم ضبط يوم الأسبوع المرغوب.
- ادفع الزر الكباس 4 واضبط الشهر.
- ادفع الزر الكباس 5 واضبط التاريخ.
- ادفع الزر الكباس 6 واضبط بيان القمر.
  - نظرًا لأن القمر يتحرك مسافة قصيرة نسبيًا خلال فترة 24 ساعة، فمن المفضل إجراء ضبط القمر عند تواجد الهلال أو البدر.
- استخدم التاج لضبط التوقيت الحالي - إذا كان بعد الظهر قم بإدارته لأكثر من 12 ساعة. في هذا الوضع تظل الساعة متوقفة،
  - ويمكن أن تواصل عملها، على سبيل المثال عند سماع إحدى إشارات ضبط الوقت أو يمكن دفع التاج إلى الوضع 1.

ادفع التاج إلى الوضع 1.

- أغلق تاج الضبط المربوط أو التاج المجهز
- بنظام QLC إذا كانت الساعة مجهزة به مع مراعاة التعليمات الواردة في فصل 1.

الوضع	0	تاج الضبط مغلق، وهذا بالنسبة لتاج الضبط المربوط أو التاج المجهز بنظام QLC
الوضع	1	وضع تعبئة الساعة
الوضع	2	ضبط الوقت وأطوار القمر
	3	الزر الكباس لضبط يوم الأسبوع
	4	الزر الكباس لضبط الشهر
	5	الزر الكباس لضبط التاريخ
	6	الزر الكباس لمبين أطوار القمر
	7	مبين يوم الأسبوع
	8	مبين الشهر
	9	مبين التاريخ
	10	مبين أطوار القمر

35 1099/07.11 Printed in the European Union